

寺世尊院ノ三號を下し給ひしより則靈地となりしかのみならず厩宮より庭前左右へ銀杏ふたとを御奉納あり其枝葉今に繁茂して自然と乳房の形を生ず凡年曆千二百餘年の靈場たり因て乳味不足の輩は藥師瑠璃光佛へ祈願をこめ一七日精進し中三日の間に御供米粥にして頂戴せば乳味満足たるべし就中世に子なき人は夫妻共に此尊像をひとへに祈らば子孫の幸福を榮ふべし故に懷妊の輩は當山如來の靈符を頂戴して仰信するものは難産の患へを除き母子安全なること尊像の御誓願にて諸人衆病悉除の利益を得給ふ事舉て算ふべからず依之本緣記の要領を傳へて爰に顯はしあぐるもの也

武州荏原郡六郷領 醫王山安養寺

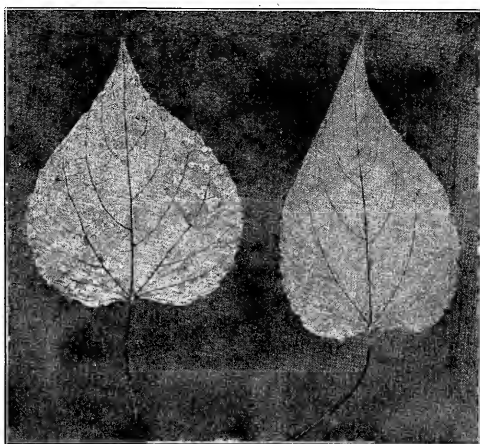
房州勝浦町高照寺ノ乳いてふハ其ノ乳ノ偉大ナルコト他ニ比類ナキ木デ、此ハ牧野先生ヨリ御話ガアツテ本年一月十六日ニ同博士ニ隨伴シテ同處ニ出掛ケ觀察シタ寫眞デ全形ト部分的ノトアル、樹ノ全體ハサホド偉大デハナイガ其ノ乳ノ巨大ナルニハ一驚ヲ喫シタ、ソシテ上ニ述ベタ善福寺ノ公孫樹ノ乳ナドトハトテモ比較ニナラナイ大サデ、コノ寫眞ヲ撮ル爲メニ邪魔ニナル墓碑ヲ牧野先生ト協力シテ二十餘リモ取片付ケ三時間ホド寺内ノ佛樣ヲ驚カシタ騒ギヲシタ（勿論住職ノ許可ノモトニ）

一般ニ公孫樹ノ乳ハ外觀全ク樹幹ノ樹膚ト異ヒナクソノ先端ハ尖ツテ圓柱狀ニ下垂スルハ丁度石灰洞ノ鍾乳石ノ觀ガアツテ如何ニモ幹部ノ養分ガ極部的ニ過剰ニナリポタポタト滴ダリ垂レタ様ニ見エル、實際乳ノ實質ハ柔カイ細胞デ過分ノ澱粉ヲ貯藏シテ居ル、而カモ雄木ニ多ク發生スル事ハ雌木ガ結實過多デ養分ヲ消費スルニ反シ雄木ニ養分ガ過剰シテ勢イ乳トナツテ垂下スルヲシク考ヘラレル、然シ乳ニヨツテ雌木、雄木ノ區別ハ絶體的ニ出來ナイ其レハ雌木ニモ亦往々多乳ノ場合ガアルカラデアル畢竟乳ハ木ノ營養狀態ニヨツテ其ノ出來具合ガ左右サレルモノト考ヘテヨイト思ハレル

## ○仙臺ノ名木あふひノ大木

久内清孝

一昨年ノ夏陸前青葉城下ノ仙臺ヲ見物シテ歩キ、マグレ當リニ仙臺ノお靈屋ノ境内ニモグリコンデシマッタ境



陸前仙臺ノ名木あふひ、實はいひぎりノ  
葉ノ實物寫眞

内ハ綺麗ニ掃除サレテ居タガ何カ見學スルモノガナイカト見廻ル  
内ニ遂ニ靈屋前ノ右側ニアル「名木あふひ」ノ建札ガ目ニツイタ、  
見レバ巨木ガ頭上ニ聳エ幹ガ二又ニ分レ伊達公以來ノ仙臺ノ歴史  
ハおれニ聽ケト言ハンバカリデアル、處デあふひノ大木ハコ、デ  
始メテ知ツタノデ兎ニ角落葉數枚ヲ拾得シテ宿ニ歸リ色々思案シ  
テ見タガコノ葉ヲ持チ合セノ知識デ判斷スルトはいひぎりトシカ思  
ヘナカツタ

いひぎりヲあふひト云フハ變ナコトデ寒村デバモアレバ方言トモ  
思ヘルガ東北文化ノ中心世ニモ名高キ竹ニ雀ノ仙臺様ノ舊城地ナ  
ル陸前仙臺市デシカモコレハマタ天下ニ名高イお靈屋ノ靈域内ノ  
建札トシテ堂々ト書イテアル以上寒村僻地ノなんじやもんじや式  
ノ名稱トモ思ハレナカツタノデ何レ根據ノアル名稱ト信ジ拾得シ  
タ葉ヲ大切ニ持チ歸リ心當リノいひぎりノ葉ト較ベテ遂ニ「仙臺  
名木あふひ」ノ木ハ余ノ現在ノ知識ノ程度デはいひぎり科ノいひ  
ぎり (*Idesia polycarpa* Maxim.) デアルト臆斷ヲ下シタ勿論花モ實モナカツタカラやりそこないトしそこない  
ハ幾重ニモ御免ヲ蒙ルトシテ當時實ノナカツタ點カラ推シテ其雄木デアルト今ノ今マデ信ジテ居ル  
色々考ヘテ見ルト葉ノ形ガ見様ニヨツテハ徳川一門ノ紋章トシテ有名ナあふひニ似テ居ル處カラ思ヒ付イタ名  
デアルノカモ知レナイ

いひぎりハ雌雄異株ノ喬木デ其房々ト下ガル赤キ實ハ美麗デアル此ノ葉デ昔飯ヲ包ンダカラ飯桐ダサウダ